

令和6年度 学校評価 自己評価書（一覧）

評価基準 A—80%以上（良い） B—60～80%未満（まあまあ良い） C—40～60%未満（あまり良くない） D—40%未満（良くない）

園学校名 安田町立安田小学校

項目	中長期経営目標	短期経営目標	短期経営目標の達成状況	自己評価	改善方策	関係者評価講評	関係者評価
知	学習意欲の向上と学力の定着並びに、授業スタンダードの質的向上を目指す	○各種学力調査の結果を分析し、授業改善に繋げる ・全国学力・学習状況調査(全国平均以上:国語科) ・高知県学力定着状況調査(県平均以上:国語科) ・総合学力調査(全国平均以上:国語科) ○講師招聘による授業研(3回)や校内研修(国語科を中心)に行く。 ○学校評価アンケート【保護者】の肯定的回答 ・「基礎学力が定着していますか」 80%以上 ・「分かりやすい授業に努めていると思いますか」 90%以上	○各種学力調査結果より ・全国学力・学習状況調査(全国平均+3P以上達成できた) ・高知県学力定着状況調査(県平均以上)は、4、5年生とも県平均を下回った。(自校採点) ・総合学力調査(全国平均以上)は全学年で下回った。基礎学力の確実な定着を図る必要がある。 ○国語科を中心に講師招聘の研究授業は予定通り実施できた。(3回)また、学習指導要領を意識した授業を目指し、授業研の事前・事後の校内研修も実施できた。 ○学校評価アンケート(保護者) ・「基礎学力が定着していますか」 76%で達成できなかった。 ・「分かりやすい授業に努めていると思いますか」 93%で達成できた。	B	○各種調査の結果を検証し、課題克服のために組織として行動統一を図り取り組む。 ○基礎学力の定着に向けた授業改善等、教師の指導力向上を目指す。 ○国語科を中心に研究授業を実施し、講師も招聘することで新しい学びを授業に生かしていく。 ○より効果的で実践的な校内研修の在り方を探り、研究の繋がりを大切にしていく。	・アンケート結果を見ると児童・保護者・教職員共に概ね良好な結果が見てとれる。全体の目標も大事かもしれないが、個々の特性を持った子供達一人一人の目標を大切にしたい。 ・参観日でも先生方が理解しやすく子どもの意欲や意見を引き出すよう取り組んでいる様子が見られる。 ・問題の正答状況把握等で、理解できていない学習について、自己指導力と児童支援方法等を追求することを大切にしたい。 ・一人ひとりの教員の授業力が高まることで、結果的に保護者意識も肯定していくと思う。 ・国語力はやはり読書量に基づくので、読書週間をはじめとした取り組みを継続して行って欲しい。	B
	家庭学習の意欲向上と定着	○家庭学習強化週間提出率:95%以上 ○読書も含む家庭学習時間達成率:80%以上(ほめほめ週間とリンクさせる:年2回) ○家庭学習の手引きを配布する。(家庭訪問時) ○自主学習ノートコンテストの実施(毎月一回)	○家庭学習提出率:88.8%で達成できなかった。 ○学習時間達成率:62.5%で達成できなかった。 ○家庭学習の手引きは配布した。 ○自主学習ノートの充実を目指し、毎月の掲示を実施できた。	B	○読書週間(ほめほめ週間)とリンクさせ、家庭学習時間の達成率向上を目指すとともに、保護者への協力を仰ぐ。 ○日々の授業とリンクさせるなど、家庭学習の取り組み方について検証・改善を図る。 ○自主学習ノートの紹介の方法を検討するなど、児童の意欲向上を図る。	・ノートコンテストや掲示実施の他に学年通信などでも載せることができれば良いと思う。 ・児童の学力差の配慮や宿題と授業のつながりの必要性など、勉強が好きになっていく方法をいろいろ試して、児童の自主性を育成することなど初心に振り返り考えて欲しい。 ・家庭学習のやり方自体が分からず主体的にできない児童が多い。ある程度のガイドラインやフォローは行っていくべき。	B
	読書活動の充実	○図書委員会を活用し、読書への興味・関心を広める。教職員による読み聞かせも実施する。 ・「本を読むのが好き」(読書アンケート 60%以上) ○家庭読書週間を2回実施する。 ○読書感想文・感想画への応募	○図書委員会児童によるおすすめの本の紹介や読み聞かせ、教職員による読み聞かせ(2回)も実施できた。 ・「本を読むのが好き」 41(54)%で、目標は達成できなかった。 ○家庭読書週間を2回実施できた。 ○読書感想文・感想画への応募・・・感想文は全学年が参加できた。感想画については1、2年生が参加することができた。	B	○図書委員会活動を、計画的に継続して行っていく。 ・選書会を来年度も実施することで、本への興味関心を高める。 ○読書感想文・読書感想画コンクールに挑戦することを通し、本への興味関心や表現力の高まりを目指す。 ○ほめほめ週間とリンクした読書週間を継続して実施する。	・委員会活動で児童から児童へ啓発するのはとても良い取り組みである。 ・読書アンケートの目標指標達成は出来なかったが、取り組みはしっかり行っていると思う。 ・読書が好きになるきっかけは人によってそれぞれ違うと思う。どんなことに興味や関心を持つかわからないが、やらされ感はダメ。読解力が身につくことで、あらゆる学力につながる。 ・感想文、感想画は全学年で参加してはどうか。	B
徳	道德教育の充実	○ほめほめ週間を2回実施する。 ○道德授業チェックシート【児童用】10項目平均2.7以上(4点満点) ○道德意識調査「自分には良いところがある」肯定的評価 80%以上 ○道德の授業と関連させ、道德参観日において「高知の道德」を活用する。	○ほめほめ週間は2回実施できた。 ○道德授業チェックシート【児童用】平均3.5で目標を達成できた。 ○道德意識調査「自分には良いところがある」肯定的評価 84.8%で目標を達成できた。 ○道德意識調査「家庭で取り組む高知の道德」の活用については、72.7%(昨年 45.2%)で向上した。活用についてのずれの改善が見られた。	A	○ほめほめ週間を実施することで、家庭の意識の高まりを目指す。 ○道德参観日や心のメモリアル活動をうまく活用し、「家庭で取り組む高知の道德」の効果的な活用を目指す。 ○各種アンケート結果を検証・考察し、児童に寄り添った対応を心掛ける。 ○道德の授業の実践力を高めていく。	・子どもたちが学校生活を楽しめている褒め合い合戦は良いと思う。 ・「高知の道德」の活用も良いが、限られた道德の時間の中で本来の学習との両立は難しいように思う。どっちつかずにならないような目標設定をすべき。 ・人は良いことも良くないこともする。価値観の違いもあるが、人々が一緒に生活するときに、社会全体が良い状態になるためには、人としてどのように生きていくかを学習することが道德教育。学校生活だけでなく、一人の人間として自分も他者も幸せに暮らせるよう、しっかり成長する取り組みを継続して欲しい。	A

	生徒指導の充実	○Q－Uの実施と活用(年2回) ・学校生活アンケート「学校が楽しい」80%以上 ・Q－U学級支援シートを作成し、共通理解を図り活用する。(全学年) ○講師招聘(是永かなこ先生)を行い、指導・支援についての研修を行う。	○Q－Uの実施と活用は予定通り2回実施した。 ・「学校が楽しい」児童肯定的評価 92.6%で目標は達成できた。(強い肯定 66.8%) ・Q－U学級支援シートを作成し、校内研修において共通理解を全教職員で図った。 ○講師招聘研修(是永かなこ教授)は、計画通り実施できた。教職員のスキル向上、児童支援につながった。また、園小中合同の研修を行うことで連携・共有にもつなげることができた。 ※児童会が主催し、ほめ合い合戦や、毎月のふわふわ言葉の提案など、児童による主体的な取組が見られた。	B	○Q-U 学級支援シートを活用し、継続した児童理解・支援を目指す。 ○講師招聘研修やサポート事業等を活用し、特別支援教育の研究を進める。 ○児童会を活用するなど、児童主体の活動につなげる。	・「学校が楽しい」が 92.6%は素晴らしいと思う。100%を目指してほしい。 ・園小中の研修で学んだことを実践できるようにして、児童が成長や発達できるように取り組んで欲しい。是永先生の講師招へいは可能な限りこれからも続けて欲しい。 ・「自分たちの学校」という意識を持って良いところは自尊し、改善すべきところは自分たちが変えていくという活動を促してほしい。	B
	人権教育の充実	○道徳意識調査 ・「いじめはどんな理由があってもいけないことだと思う」100% ・「人の気持ちが分かる人間になりたいと思う」95%以上 ○人権標語(全学年)に取り組み、人権意識を高める。 ○人権参観日に講師を招聘し、人権についての理解を深める。	○道徳意識調査 ・「いじめはどんな理由があってもいけないことだと思う」99%で達成できなかった。 ・「人の気持ちが分かる人間になりたいと思う」96%で達成できた。 ○人権標語は、全学年で取り組んだ。 ○人権参観日に人権コンサートを実施し、全校児童、保護者、教職員等とともに人権について考える機会となった。(講師: 武市光平さん)	B	○教育活動全体を通じて、児童の人権意識・人権感覚の高揚に努める。 ○人権標語に全校で取り組み、人権意識を高める。 ○人権参観日や講演会等を設定し、授業を通し教員の人権意識・人権感覚を高めるとともに、児童・保護者の意識の変容にも努める。	・いろいろな立場や経験を聞ける人権コンサートはとても良いと思う。 ・子どもたちの仲間意識を高める学級活動や授業で、自分の大切さと他の人の大切さを認める思考力や対話力を教えることが好きな先生になって欲しい。 ・子ども一人ひとりに丁寧に接することができて、見守りながら上手にサポートできる先生を児童も保護者も待っており、児童・保護者の意識の変容につながると思う。 ・講演会の日程やお知らせを工夫して保護者の参加をより促すべき。	A
体	体力向上・運動の習慣化	1 体力向上 ○年度末に柔軟性が県平均に達している児童の割合 30%以上 ○年度末に敏捷性が県平均に達している児童の割合 50%以上 ○朝の体操、体育朝礼、体力アップ集会を計画的に実施し、体力の向上を目指す。 ○「こうちの子ども体力・運動能力向上プログラム」の活用、外部講師を招聘するなどし、体育科における教師の指導技術向上とともに、体力の向上を目指す。 2 運動の習慣化 ○年度末には、「1日の運動時間が1時間以上運動をしている児童の割合 50%以上 ○運動習慣に繋がる授業を展開する。(「運動やスポーツをすることが好き」 肯定的評価 95%以上)	1 体力向上 ○年度末に、柔軟性(長座体前屈)が上昇した児童の割合 60.8%以上で目標達成。 ○年度末に敏捷性(反復横跳び)が県平均に達している児童の割合 51.5%で目標達成。 ○朝の体操、体育朝礼、体力アップ集会は、計画的に実施できた。 ○「こうちの子ども体力・運動能力向上プログラム」の活用、外部講師を招聘するなど、教師の指導技術向上とともに、児童の体力向上を目指した。 2 運動の習慣化 ○年度末には、「1日の運動時間が1時間以上運動をしている児童の割合 40.2%で目標を達成できなかった。 ○運動習慣に繋がる授業を展開する。「運動やスポーツをすることが好き」 肯定的評価 89.7%で達成できなかった。	B	○課題のある運動種目については、取組を検証する上でも、年度末に実施し検証していく。 ○朝の体操、体力アップ集会を計画的に実施し、運動の習慣化を図る。 ○「こうちの子ども体力・運動能力向上プログラム」の活用、外部講師の招聘等で、教師の指導力、児童の体力向上を目指す。 ○委員会活動を積極的に行うことで、児童の意欲向上に努める。 ○体育アンケートを実施し、結果を有効に活用し、授業や体育行事の改善に繋げていく。	・教師向けの指導も実施している。 ・子どもが登下校で歩いたり、外で遊んだりすることで自然に体力がついていたが変化してきた。運動は健康のために大切なこと。小学校全体で休み時間や昼休みなどに竹馬や一輪車などに遊び感覚でチャレンジする気持ちやコツ、技能を習得しようと積極的に体を動かすような方法を取り入れて、楽しく遊び共に体を動かす仲間づくりにつなげて欲しい。 ・登下校を徒歩でできているのかを奨励して進めてもらいたい。	B
	健康教育の推進	○各種アンケートの実施と活用 ・生活実態調査(年度初め1回)、生活リズムチェック(各学期1回)、朝ごはんカード(年1回)を実施する。 ・生活リズムチェック : 「メディア視聴時間1日2時間以内」 達成率 80%以上 ・生活リズムチェック : 「6時半までに起きる」 63%以上、「早く寝る」 73%以上 ○生活改善啓発のため、年間を通して通信(やすだっ子通信・朝ごはん通信等)を発行する。 ○肥満度が 20%以上の肥満傾向児童の割合 15%以下『必要に応じて児童、保護者に対して個別相談指導(食物アレルギー・肥満等)を実施する。』	○各種アンケートの実施と活用 ・各種アンケートは、計画的に実施・分析を行った。 ・「メディア視聴時間1日2時間以内」 達成率 75%で目標を達成できなかった。 ・「6時半までに起きる」66% で目標達成。「早く寝る」⇒65%で、目標を達成できなかった。 ○年間を通して通信を発行し、生活改善のための啓発を図った。 ○肥満度が 20%以上の肥満傾向児童の割合 17%で目標を達成できなかった。児童や保護者との個別面談は実施し、現状と課題を共有した。また、気になる児童(肥満)に対しては、日々対話を継続して実施するなど、児童の意識改革を行った。	B	○SSW、専門機関と連携し、情報の共有を図る。 ○アンケートや Q-U の結果を分析し、全教職員の共通理解のもと支援するように努める。 ・校内研修を継続して行い、児童理解や支援の方法についての学習を進め、指導力を高める。 ○健康面等については個別指導や保護者面談を行うなど、現状や課題を共有し改善に向けた取組を推進する。 ○アンケート結果を検証し、通信等で情報発信し啓発を図る。	・生活が便利になったり、生活様式が変化することで、子どもの生活全体の運動が減少したり、ゲームなどの室内遊びなどが増え、運動不足の原因になっていると思う。家庭での睡眠や食事など運動以外の改善も重要であり、保護者との連携が必須である。学校が課題を把握し関係講師を招いて合同研修などのアプローチをして欲しい。 ・ノーメディアデイは作った方が良い。	B

横断	学校・家庭・地域との連携	○園小連携事業(年間 4 回以上の交流学習)を計画的に実施する。 ○教科等による小中連携の実施 ○計画的に地域教材や人材を活用した授業を行う。(全学年1回以上)	○園小連携事業(年間 4 回以上の交流学習)を計画的に実施できた。 ○外国語において小中連携を実施した。(5, 6年生) ○各学年計画的に地域教材や人材を活用した授業を年間1回以上行うことができ、地域や人を知る機会となった。	A	○事前事後の計画や振り返りを確実に実施し、相互性のある連携を目指す。また、学年が偏らないよう多くの学年と交流できるようにしていく。) ○充実した学習活動にするためにも、地域の教材や人材を積極的に活用し、結びつきや繋がりを深めていく。	・校外学習、地域の方たちとつながる機会が多く、いい経験をさせてもらっている。 ・既存の取り組みは継続して、少しずつ地域教材や新しい人材活用を開発して欲しい。 ・新たな事業に取り組めた。つながりづくりが今後結果として出てくることを期待している。 ・小規模ならではの園小・小中の連携は安田町の強みなので、継続して欲しい。	A
	不登校への総合的対応	○不登校児童、別室登校児童:各0人 ○学校評価アンケート「学校生活が楽しい」90%以上 ○SC、SSW と連携を図り、情報共有、支援会を月1回以上実施する。	○不登校傾向の児童は2名、別室登校児童は0であった】 ○学校評価:「学校生活が楽しい」90%で目標は達成できた。 ○校内支援会、特別支援研修は計画的に実施できた。しかし SC、SSW を交えた支援会は数回しかできなかったが、来校時には情報の共有化を図り、児童支援についての助言をいただいた。	B	○各種アンケートを参考にし、分析することで、課題解決に向け全教職員が組織として行動統一を図り、取組を推進する。 ○SCやSSW、専門機関等の助言を参考にしながら、継続して支援の必要な児童への対応を目指す。	・できることは全て取り組んでいると思うが、無理をせず、子どもの味方をお願いしたい。 ・前期から後期にかけて支援を続けた結果が出たのではないか。「0人」の目標は今後も設定していくべき。 ・不登校傾向の子が楽しくなる、行きたくなるきっかけが見つかって欲しい。	B
	学校における働き方改革の推進	○時間外勤務月 80 時間未満 100% 45 時間未満 50% ○校務支援システムの活用等、研修を年3回実施 100% (時数管理・通知票・指導要録など) ○月1回以上の定時退校日の設定と徹底 100% ○定期的に個人面談を実施する。 ○不祥事を起こさない、起こさせない職場を目指す。(不祥事 0)	○時間外勤務月 80 時間未満 96.3(100)%は達成できなかったが、45 時間未満 77.5(68.9)%は達成できた。 ○校務支援システムの活用等、研修を必要に応じて実施した。 ○月 1 回以上の定時退校日の設定ができていない月があった。計画の徹底が弱かった。 ○定期的な個人面談だけでなく、必要に応じて面談を実施した。 ○職員会や職朝等で、継続して注意喚起を行った。(不祥事 0)	B	○継続的な声かけ、計画的な定時退校日の設定を行い、教職員の意識を高める。 ○校務や議会の簡素化・効率化を目指す。 ○教職員とのコミュニケーションを大切にするとともに、働きやすい職場環境づくりを目指す。 ○不祥事防止に向けた注意喚起を継続し、必要に応じて面談も実施していく。	・先生の仕事をしながら子どもたちへの対応に喜びを感じたり、悩んだりすることもあると思うが、子どもの個性を理解し、子どもたちの成長を支える素敵な先生方になって欲しい。	B
	防災を中心とした安全教育・安全管理の充実	○学期に1回安全点検を実施する。 ○防災参観日等を活用して、「災害時の家族との連絡手段、や合流手段」を取り扱う授業を行う。 ○避難訓練(地震・津波2回、シェイクアウト1回、火災1回、不審者1回)、防災参観日(1回)、下校時の避難場所の確認(1回)を実施し、防災意識を高める。 ○「児童の防災教育等の肯定的評価」95%以上	○学期に1回安全点検を実施し、修繕等実施も行った。 ○防災参観日等において、災害時の確認をする授業を実施した。 ○避難訓練(地震・津波2回、シェイクアウト1回、火災1回、不審者1回「教師向け」)、防災参観日(1回)、下校時の避難場所の確認(1回)を実施し、防災・防犯意識を高めることができた。 ○「児童の防災教育等の肯定的評価」(実施中)	A	○毎年危機管理マニュアルの見直しを行う。 ○避難訓練は、事前・事後の振り返りを確実に行うなど、内容を見直しながら継続して行うことで、教職員、児童の意識を高め、対応力を付ける。	・防災参観日では家庭向けの講座も行い、子どもだけでなく保護者の意識向上に取り組めた。 ・防災、防犯意識は高いと感じる。特に防災教育に力を入れてくれている。子どもを通じて家庭への共有もできている。 ・管理職のリーダーシップで、学校安全計画や危機管理マニュアル等に基づいた取り組みができていていると思う。教職員一人ひとりが、これからも必要に応じた学校安全に関する資質・能力を向上させて欲しい。また、家庭や地域の関係機関との連携も、情報交換を常に行えるようにして地域ぐるみで安心できる学校生活などが送れる環境をさらに発展させて欲しい。 ・登下校の訓練を地域ごとに分けて行うことを継続して欲しい。	A
	デジタル技術を活用した「学校の新しい学習スタイル」の構築	○タブレット・プログラミング、電子黒板活用の研修を行う。 ○研修で学んだことや実践したことを共有する場を設ける。	○タブレット、電子黒板活用の研修は実施できた。 ○校内研修やメンター会において、ICT 活用についての交流を行うことで、国語・社会・生活科での実践活用が増えた。ただ、タブレットの使い方についての共通理解・共通認識が不十分であり、各学年での使用の仕方にずれが見られた。	B	○効果的な ICT の活用を目指し、教職員の研修・実践交流を実施していく。 ○タブレットの活用については、教職員間での共通認識を図り、正しくより効果的な活用を目指す。	・タブレットなど活用しており、子どもの理解を促すような授業づくりに取り組んでいる。 ・デジタル教育をマスターして先生の仕事や児童の学習意欲などにつながるメリットを最大限に発揮できるよう、しっかり取り組んで欲しい。 ・電子黒板の使用率は増えたように思う。タブレットは依然担任によって差があるので、より活用を。 ・タブレット学習が増えることによる視力低下や辞書で調べる方法を知らない子どもが増えることが心配である。	B